

活動内容報告書

団体名		一般社団法人 ある	
直近3か月活動報告	2024年 2月 1日	若年妊産婦の就労を支援するために、託児施設をオープンし、赤ちゃん3人を預かる。	
	2024年 3月 9日	沖縄タイムス主催 国際女性デー×フェムテックにて、トークショーに代表理事 登壇	
	2024年 4月 18日	10代ママくらぶin 浦添 (子育て広場Anne)	

活動風景の写真を添付してください

2024年(令和6年) 3月19日 火曜日 沖縄タイムス

LIFE 暮らし

人権や多様性含め性教育

若年ママ支援「チームで」

女性の健康課題をテクノロジーで解決する「フェムテック」をテーマに、浦添市内で9、10の両日、沖縄タイムスが開いたイベント。2人奮闘する姿があり、関心の高さがうかがえた。生理や更年期に伴う心身の変化、子どもへの性教育などについて学び、考えながらプログラムを振り返る。

「みんなで知りたい性のこと」をテーマにしたトークショーでは、学校現場での性教育も若年妊産婦支援に取り組み4人が考えを語り、本紙学芸部の勝浦大輔記者が司会進行した。

登壇者からは、学習指導要領で定められた性教育に関する制限、歯止め規定の課題が挙げられた。保健体育の元教員で、思春期保健相談士の和田なほさんは「年齢が低いほど性に対して備わっていない、子どもに必要な情報と関心の教育方針が合っていないのが現状」と指摘。美ら海ニュースクリティック代表で産婦人科医の深津真澄さんは「大人数の正しい性教育を受けられず、教育イコール性行為の印象が強い、妊娠して生まれてくることの尊厳、人権を尊重するまでを含めた包括的性教育は、その子自身に決定権を委ねることも大切だと強調した。

「フェムテック」テーマにイベント

国際女性デー×フェムテック／沖縄タイムス記事より



コメント

毎月、那覇と浦添で2回開催される「10代ママくらぶ」には10人前後のママの参加があります。何回も参加しているうちに、若いママたちの希望は、「車の免許をとりたい」、「学校へ行きたい」、「昼間の仕事をさがしたい」と、具体的に変わってきます。でも、赤ちゃんが保育園へ入れないと、ママのスキルアップも叶いません。それで赤ちゃん3人限定の小さな託児室をオープンさせました。託児スタッフには、地域で活動中のベテラン里親さんです。これまで細々と運営していた「ばあばくらぶ」を認可外保育施設として活用することで、託児できる里親さんを増やしたいと思っています。早速2人のママが、復職しました～！これから、就職、学校への復学など、若いママたちが一歩を踏みだせるよう、育児を応援していきます。寄付金は赤ちゃんの離乳食や自分のためのごはんを一日1食しかとっていないママたちに、しっかり食べてもらうための食材の提供にあてました。これからも10代のママと赤ちゃんの応援をよろしくをお願いします☆